

第73回全国高等学校PTA連合会大会2024茨城大会 が開催されました！



8月22日(木)～23日(金)にかけて、アダストリアみとアリーナ他、茨城県内の各会場にて、全国高等学校PTA連合会大会2024「茨城大会」が以下の内容で開催されました。

8月22日(木)

【アトラクション】

第1分科会 花生けパフォーマンス

茨城県立小瀬高等学校、茨城県立太田西山高等学校、茨城県立取手第二高等学校

第2分科会 ジャズ演奏

茨城県立水戸工業高等学校

第3分科会 ガマの油売り口上

茨城県立筑波高等学校

第4分科会 応援団演技披露

茨城県立下妻第一高等学校

第5分科会 書道パフォーマンス

茨城県立麻生高等学校

<第1分科会の展示作品>



【講演会】

第 1 分科会 テー マ 「教育の過去・現在・未来」 ～故きを温ねて新しきを知る～

講演 I 弘道館事務所主任研究員 小坪 のり子 氏

演 題 藩校「弘道館」の教育

講演 II 茨城大学教育学部 教授 加藤 崇英 氏

演 題 「もっと学校・教育がみんなに開かれる未来を展望する」

第 2 分科会 テー マ 「保護者・教師・生徒が抱える問題と解決法」

～新たな一步を踏み出すために～

講演 I 司馬クリニック院長 医学博士 司馬 理英子 氏

演 題 「のび太・ジャイアン症候群」

講演 II 有馬総合法律事務所 弁護士 有馬 慧 氏

演 題 「18 歳になったら気をつけること～ 18 歳になる前に～」

第 3 分科会 テー マ 「新・生きる力と家族の絆」

～子どもの心に風邪を引かせない～

講演 7 男 2 女の大家族お母ちゃん 石田 千恵子 氏

演 題 「子育ては気力・体力・経済力」

フリートーク（石田講師を交えて）

第 4 分科会 テー マ 「みんなで考えよう、これからの P T A」

～あるべき新しい姿とは～

講演 I 花園大学社会福祉学部 教授 炭谷 将史 氏

演 題 「PTA は学校づくりのパートナー」

グループトーク

第 5 分科会 テー マ 「これからのコミュニティ・スクール」

～地域社会との新たな連携・協働～

講演 I 文部科学省国立教育政策研究所 総括研究官 志々田 まなみ 氏

演 題 「学校と地域とでつくるこれからの学校

ーコミュニティ・スクールとはー 」

グループトーク

8月23日(金)

【アトラクション】

マーチングバンド・ステージドリル 茨城県立大洗高等学校

【表彰式】

【記念講演】

講師 二所ノ関 寛 氏（第72代横綱 稀勢の里）

演題 「人材育成の不易流行」

☆本校も出店しました！☆

本校も、梨、おかき、イチゴジャム、乾麺（うどんとそば 農業科と生活科学科）、カボチャの販売を行いました。開店前から行列ができ、あっという間の売り切れとなりました。



【出店係員の感想】

・ジャム、そば、うどん等の販売物について、お客様に詳しく説明しながら販売することができました。生徒の頑張りのもあり、大盛況の中、あっという間に完売してしまいました。生徒が販売、袋入れ、補充等、主体的に行動する姿が見られました。学校の学習だけでは経験することができない貴重な経験になったと思います。（引率教員）

・全国各地の方に水戸農業高校の農産物を手にとっていただき、あっという間の販売会となりました。完売後はお客様に水農のことについて聞かれ、生徒が積極的に答えました。普段とは違う販売会になり、良い経験になったと思います。（引率教員）

ご報告

PTA 会長 松原 正和

【全体会】

全国高等学校PTA茨城大会に実行委員として参加することになり、今まで参加することとは何度も経験していますが、迎えるということは初めての経験ですし、他高PTA役員さんと協力して出来るかがとても不安でした。しかも、受付という、参加する方々が一番初め

に接する役割で、参加する方々に失礼が無い様にと、茨城に来て良かったと思って頂ける様、頑張るしか無い！と思い、自分の出来る事をやろうと思いました。自分の担当は二日目の全体会になるので、イメージトレーニングも兼ねて一日目の分科会に参加し、受付の状況を見てきました。そこで自分なりに考え、良い所・改善点を何か所か見つかったので、とても良かったと思いました。担当するアダストリア水戸アリーナは入り口が異常に狭く、沢山の人の出入りには不向きな作りになっているので、4000人以上の人を渋滞なく捌くことが出来るかが一番の不安要素でした。

当日、打合せを行い、その中で初日に決まったことを確認し、配置につきました。担当校は、水農、水戸南、高萩清松の三校で、入口正面でした。受付が開始された時は、時間も早かったので、疎らでしたので、一人一人に丁寧に対応出来ました。時間が進むにつれ、入口には沢山の参加者の姿が見えて、不安になりましたが、入口で記念写真を撮る人が多く長蛇の列になっていたのも、撮影エリアがクッション材の代わりになってくれたおかげで、極端に混むことはありませんでした。撮影エリアに感謝したのは人生で初めてでした。

おかげで、受付対応はスムーズに出来ましたが、中には場所を間違えて来ている方が数組いて、場所を教えてそちらに行ってもらうのが一番辛かったです。何故なら、数千人が水戸に集まっているので、タクシーも捕まらない状態、バスでも本数が少ない、歩いた場合50分近く掛かるのを承知でお願いするからです。間違えた方が悪いのでは？と思うかもしれませんが、県外から来た方々は土地勘も無く、途方に暮れている姿を見てしまうと本当に辛かったです。

その後も特にトラブルも無く進み、入口に来る参加者の姿も見えなくなってきましたので、各県ごとに集計する作業に移りました。集計の方へ手の空いている委員さんが集まってくれて、大勢で行ったので、思ったより早く終わり、昼食を水農PTA役員・先生で食べたのが楽しく・美味しく頂きましたし、一番気を抜くことが出来た時間でした。

物産展に水農でも販売すると聞いていたので、時間が出来たら行こうと思っていましたが、あっという間に売れて終わってしまったとのことで、顔を出せなかったのは残念でしたが、全国の参加者様がそれだけ良い物を出しているということに気付いて購入して頂けたことが嬉しかったです。

今回、全国の方々を受け入れる側として参加することが出来き、参加する側では感じる事が出来ない事を経験できたことで、今後参加する時に、受け入れる側の気持ちになって、お互いに気持ち良く出来るようにしたいと思いました。そして、普段関わることの出来ない他校PTA役員さんと協力し分かったのが、志が同じ方向にある人達が集まれば、何倍の力になり大きなことを成し遂げられることです。この経験は今後の人生にもプラスになると思います。今後も、沢山の人間と関わって、教育や地域に貢献していきたいです。

【分科会】

全国高等学校PTA茨城大会の第一分科会に参加してきました。

全国規模の大会に参加するのは初めてでしたので、少し緊張していました。分科会は第一

から第五まであり、この第一分科会に参加する方は1500人規模との事で、前回参加した関東高P連千葉大会よりは少ないと思いながら、アリーナの中で始まるのを待っていましたが、思った以上に会場は人で埋め尽くされていました。

そんな状況に圧倒されながら、遂にアトラクションが始まりました。第一分科会のアトラクションは、五分間で即興にて花を生ける「花生けバトル」でした。花生けバトルは今まで観た事が無かったので、とても新鮮で花好きの自分はとても興味を持ちました。花生けと言うと、小さな部屋に飾るイメージでしたが、花生けバトルでは、高さ2メートルを超える大きさで、使う素材も大きな物が多く、そして、バトルと言うに相応しい白熱した感じが、生け花という物のイメージを変えるものでした。今回はパフォーマンスという事で勝敗はつきませんでした。小瀬高等学校、太田西山高等学校、取手第二高等学校の三校共、とても素晴らしい物を作り上げていましたので、最初から度肝を抜かれるようなスタートでした。

第一分科会の講演は二部設定で、まず「藩校『弘道館』の教育」と題し、弘道館事務所主任研究員小坪のり子氏の講演を聞きました。最初に新一万円札でお馴染みの渋沢栄一主人公の映画の撮影で使われたという事に驚きました。そして、弘道館は重要文化財であることから、建物や装飾品等に傷がつかないように慎重に行ったという事を聞いて、とても大変な撮影だったのだと感じました。更に、教育や経済弱者の事を考える、とても人間的に素晴らしい方だったとのことで、とても親近感が湧きました。そして、水戸藩の教育に影響を受けたとのことです。

次に、彰考館にて、大日本史を編纂するのに、第二藩主徳川光圀（1657年）から始まり、完成したのが明治39年（1906年）と249年も掛かって作られたことにその意志を引き継いだ人達の熱意に感銘を受けました。

そして、水戸藩は、日本の中でも数少ない医学や、音楽、武術に至るまで幅広く教育を行い、当時の教育の完成形とも言われていたとの事です。国の発展には教育が欠かせないということを認識していたということだそうです。時代は変わっても、教育の重要度は変わっていないことに、教育の重要度を再認識しました。

次に、「もっと学校・教育がみんなに開かれる未来を展望する」と題し、茨城大学教育学部教授加藤崇英氏の講演を聞きました。今までの教育と、これからの教育の変化を分かり易く説明されていました。今までは、教室で教科書を使い一斉に同じ内容を詰め込む授業でしたが、これからは子供主体の教育を行っていく必要があるとのことです。教育も多様化し、何をもって学んだかという判断も大きく変えていかなくてはならないとのことです。この変化は、コロナ渦でのリモート授業から大きく変わってきたとおっしゃっていました。教育の内容も、全員同じだったものを、個別最適な学びと、協働的な学びの2方向での教育の実践にしていくとのことです。個別最適な学びも、子供一人一人に合った課題や勉強法を設定するそうです。ただ、これにも問題があり、このカリキュラムを設定する先生達の負担が増えるということです。そして、協働的な学びは、クラスメイトや異学年、地域の人、専門家と関わり合い、色々な事を学んでいくとのことです。協働的な学びに関しては、地域の方や、

外部講師等との関わりによって学ぶ事も必要だと思いました。そうすると、現在進めている、コミュニティースクールも必要であると思いました。教育も今までの型に嵌ったものでなく、多種多様で柔軟な教育に変わっていくとのことです。

今回の講演を聞いて、今までの固定観念を改め、時代に合ったやり方で進めていかなくてはならないということを認識するとともに、先生達は今後の授業の進め方に苦勞するのは？と思い、働き方改革と、新しい教育方針との相反する問題にどう対応して行くのか、考えていかなくてはならないと認識しました。

PTA 顧問 原 泰三

8月22日～23日に開催されました、全国高等学校PTA連合会大会に参加してきました。

22日の分科会は第3分科会「石田千恵子氏」の講演を拝聴してきました。大家族でPTAの役員もされており、「大変、面白くない」と思われがちなPTA活動を楽しく、辞めるのが残念と思わせる活動を進めたと話しておられました。しかし、その方法を具体的には聞くことが出来ませんでした。

23日の全体会の日、わが校の物販に参加しました。農業関連の学校の方はやはり関心があるのか、たくさんの方が物販ブースに来訪して頂きました。缶入りのいちごジャムは珍しいのか、女性の方には好評でした。

PTA 副会長 大内 美津枝

始めに第70回関東地区高等学校PTA連合会大会千葉大会では、アトラクションの、柏おやじダンサーズは素晴らしく、その後の記念講演では「高校生の問題」で高校生に対しては勿論、保護者に対しても勉強や様々な事について学ばされました。私は会長さんと同じ第5分科会に参加しましたが、ここでも、高校生や保護者で学ばれる事ばかりでした。私達保護者は勿論、PTA 役員と職員とは子供達の事に関して、コミュニケーションが大切だと思います。コミュニケーションが無ければ保護者は不安になりさらに子供達の事もわからないまま、時間だけが過ぎてしまい、保護者からしたら何分家の子は学校でどのような様子なのかもわからない不安もあると思います、もっと保護者と職員とのコミュニケーションを取るべきです。

第73回茨城大会では、分科会に参加出来ませんでしたが、全体会で役員として受けを担当しました。皆様各地から参加されて素晴らしい方々でした。まだまだ学びつつ、職員とコミュニケーションを沢山取りながら水農のPTA役員として素晴らしい水農になるよう尽力していきたいと思っています。

PTA 副会長 村田 真理子

初めて参加し、受付を担当しましたが、ものすごい人数で驚きました。

受付はさほど渋滞がおきずにスムーズに進んでいたのが良かったと思いますが、場所が分かれての開催だったこともあり、別の場所に行かなくてはいけない方が間違えて来てしまい、戻らなくてはいけないことを伝えるのは大変申し訳ないと感じました。

このようなことがおこらないように、次回開催される時は、何か工夫をして場所を間違えないようにしていければと思いました。

初めての経験でこんなにも多くの方が茨城に来てくださり、とても感動しました。

PTA 副会長 藤枝 扶美

8/23 アダストリアみとアリーナでの高P連全国大会に参加しました。

今回は受付など裏方としての参加でした。全国から参加して頂き、場所間違いや参加券間違いなどのハプニングもありましたが、無事終わって良かったです。

水農の生徒たちのおかきやジャムの販売はあっという間に終了してしまったようで「欲しかった」との声がきこえてきて、申し訳なく思いました。

全国大会という貴重な機会に参加させて頂きとても楽しかったです。

P T A 監事 高山 利枝

1 日目は第一分科会に参加させていただき、小坪のり子氏と加藤崇英氏による『教育の過去・現在・未来』についての講演を拝聴しました。

小坪氏は幕末の教育と弘道館について、加藤氏は現在・未来の教育、今の教育現場の問題について講演されました。幕末の時代から日本の教育は進んでいたようでとてもためになるお話でした。

2 日目は記念講演で第 72 代横綱稀勢の里、二所ノ関親方の現役時代から早稲田大学を経て相撲部屋を茨城県に作った経緯や、茨城県に相撲部屋を作るメリット・デメリット、ご自身が親方からかけて貰った言葉を今弟子に伝えていることなどお話しされました。とても感動的なお話で、今頑張っている子達にも伝えてみたいと思いました。

両日のアトラクションでは茨城県内高校生による、生け花やマーチングバンドが披露されました。とても盛り上がり、茨城の魅力を十分に発揮することができたと思います。全国から 5000 人以上が集結し、挨拶をされた来賓の方々が口を揃えて『魅力度ランキング最下位から脱出できるよう茨城の魅力を広めてください』と爆笑をとっていました。

開催地が茨城県という貴重な 2 日間に参加できたことに感謝申し上げます。